令和５年度仁淀川清流保全推進協議会合同ＷＧ　議事要旨

日時：令和６年１月 18 日（木）10:00～12:00
場所：高知青少年の家　会議室（吾川郡いの町天王北１丁目 14 番地）
出席者：【ＷＧメンバー】　９名
　　【事務局】　２名
　　【流域自治体職員】　７名

１　会の内容
（１）　会議の進行予定の説明
（２）　出席者の自己紹介
（３）　議題
ア　仁淀川清流保全計画の取組内容の進捗状況及び今年度の取組状況について（報告）
イ　来年度の取組について（協議）
ウ　その他（意見交換等）

２　協議結果

項目	結果
令和６年度観察会 「カジカガエルを探そう！」	（案）のとおり実施。同時にホタルを見る講座が可能かについては要検討。
仁淀川親子ふれあい交流体験	３月頃に打合せを実施し、内容を検討する。
令和６年度川の安全教室	（案）のとおり実施。川と人、社会、文化の関わり講座については新講座を検討。 周知については行政機関に向けても実施する。
仁淀川一斉清掃について	（案）のとおり実施。水質調査結果についての見直しと会場での説明を実施する。
ごみ勉強会	（案）のとおり実施。
カジカガエルを探せ！ 仁淀川のいきもの調査	令和６年度も引き続き調査を継続する。マップ等の体裁は現状維持。
河川ごみマップ・水質マップ	
その他検討事項	【川にふれ合う行事の充実・広報についての検討】 ・（案）のとおり実施。 【仁淀川スタイルの投稿に関して】 ・撮影協力者を募り、必要物品を購入する 【清流モニタリング事業調査に関して】 ・日下川を調査地点から外す 【広報作成について】 ・（案）のとおり実施

3　議事概要

【議題1の概要】

座長	先日ごみの勉強会をするという企業様がいた。企業の若い方が子どもたちに勉強を教えるにあたり、リスクマネジメントをきちんと理解しなくてはいけないので、川の安全教室を受講した方が良いとお伝えしている。日ごろから付き合いのある方に発信することや初めてお会いする方にも周知が可能である。
会長	ごみ勉強会を先日、とさ自由学校で実施したが、人がたくさん来るところで勉強会をしていると、色んな人が関心をもってくる。
事務局	調べ学習ハンドブックの中にＰＴＡや子供たちの親世代の方々に川の危険性や地元の川の状況について、学び、親しんでもらう講座を６月以降に追加した。そのことは、学校のＰＴＡ連合会などの関係者が集まる場で、大体500人ぐらいのＰＴＡ幹部の方に紹介をした。結果の後追いをしながら、川の安全教室への参加の取組も実施していく。

【議題2の概要】

	【令和６年度観察会「カジカガエルを探そう！」（案）について】
座長	・以前、参加した帰りにホタルを見に行った。観察会終了後にホタルを見に行く、あるいはセットで講座を行ってはどうか。
会長	・宮の前公園で観察会を行ってからホタルを見に行く、または波川でホタルを見ながら小道を歩き、帰りに堤防へ寄って、カジカカエルの鳴き声を聞く方法もある。
	【令和６年度川の安全教室（案）について】
座長	・受講したいが受講できない理由があり、それは曜日によるものなのか、時間によるものかが分からないので、受講したかったけど出来なかった方への要望を調査した方が良い。目標がリスクマネジメントを出来る人を仁淀川流域で増やすと言うことであれば、場所にこだわる必要は無いのではないか。
会長、メンバー	・新しい講座の提案で高岡の用水路があるが、以前試験的に実施した。
メンバー	・リーダー講座の資格取得後は何かやることはあるのか。 →（事務局）協議会主催の講座の補助講師として活躍していただいたり、他団体の講師としても活躍している。 →（座長）小学校の方から授業の中で川で遊ぶ世代に学ばせたいという声があがってくるが、川の安全に関してはRAC（NPO法人川に学ぶ体験活動協議会）が一番取組みが進んでいるので、この団体で学ぶと言うことが非常に重要となってくる。
事務局	・今年度リーダー講座は雨天により中止になったが、このときは仁淀川流域外から１人応募があった。今年度は昨年度以上に広報を、仁淀川流域の市町村等に協力いただいたが、人数が集まらなかった。来年度は仁淀川流域だけでなく物部川の流域や、また市町村の職員にも興味を持っていただいているので、行政関係者にも向けて周知を行う。経費は当協議会の経費で持ち、仁淀川流域をメインとしつ

	つ、他の河川の関係者にも情報提供する形で県全体でリーダー資格取得者を増やすことも視野に入れていく。 →（会長）鏡川流域や物部川流域で、なぜうちでやってくれないのかという声があがっている。 →（事務局）鏡川の方は高知市が事務局担い、物部川は当課が事務局だが協議会としての予算がない。やれることやれないことはあるが、複数の協議会の連携行事として取り組むことも視野に入れてやっていきたい。
メンバー	・リーダー資格取得者が、いの町の水切り大会のようなイベントで、安全安心で楽しい水辺活動を教え、より深い知識を求める方へは、川の安全教室へ勧誘する方法もある。安全安心で楽しい水辺活動を目的とするのであれば、例えば動画を作ったうえで、各キャンプ場や河原にＱＲコードを掲示し、動画で学んでもらうなどにした方が、目的としては効果が高い。 →（事務局）動画などの情報発信は、仁淀川流域交流会議や流域の市町村と連携していきたい。
メンバー	・今年は仁淀川町の宮崎の河原の土居川で、堰堤が開いているときに、2人流され、1名は堰堤からそのまま下に落ちて亡くなっている。県外から来た人に堰堤が開いていることを知らせる必要があるかと思うが、役場を通じて、堰堤を管轄している四国電力から堰堤のゲートを開くことに告知する義務は法的にないと回答があったと聞いている。何らかの形で告知しないと、また来年も起こると危惧している。看板やQRコードを使うなどの危険性を本当に感じられるような知らせ方をすれば、防げると考える。 →（メンバー）消防団で、仁淀川の河川敷で亡くなった方を引き上げたことがある。川とプールで水難の認識の差がある方が多い。川の安全面に関する最低限の知識を周知する方法があるのであれば、安全で安心で楽しい活動になると思うので検討していただきたい。
メンバー	【令和６年度仁淀川一斉清掃（案）について】 ・毎年水質検査の結果を、いの町吾北では参加者の方が関心を持っている。参加された方から、水質が悪くなってたときには、どうして悪くなったと聞かれることがある。その際は、雨が降ったり、気候の条件があるのではないかと曖昧な回答している。聞かれる方にお答えできるような資料をいただきたい。 →（会長）水質調査の結果要因が、一斉清掃に参加される方をはじめとした県民へ伝わっていないと感じる。以前は一斉清掃後に、水質調査の結果を口頭で説明していた。新型コロナウイルスが蔓延してからは、人が密集する観点から自粛していた。担当者を置いて、説明できるような体制を備えておく必要がある。 →（事務局）経年の変化が分かるようなグラフであれば、一時的に水質が悪化しているのか、どんどん悪化しているかが分かる。住民の方には、変動があるものと分かっていっていただける説明をし、かつ水質を維持するために住民の方々ができることを考えていただけるようなデータの活用の仕方、見せ方を検討する。
メンバー	・一斉清掃時に公表する水質調査の判定項目は何か。 →（事務局）ＣＯＤのパックテストである。

	→（メンバー）化学的な測定値は大きく変動する。特に渇水期などは水量の問題がある。1回の測定調査で判定するのは困難であり、化学的な数値の特性をきちんと説明する必要がある。化学的な調査を補完するものとして生物学的な算定方法ある。化学的調査と生物学的調査の両方で調査を行わないと本当の水質の判定は出来ないことを住民に説明しないといけない。住民から心配されるのを防ぐためにも、工夫が必要だと考える。 →（事務局）衛生環境研究所に水生生物調査も依頼しているので、そのデータと一斉清掃のパックテストの結果の両方が見れる形で検討していく。
	【ごみ勉強会（案）について】
座長	・ごみビンゴについて、移動時間のことや子どもたちの状況を見て切り上げるため、ハンドブックの内容をアレンジがする必要がある。
会長	・今年度新居小学校にも提案する方向で良いのか。 →（事務局）提案する。
	【カジカガエルを探せ！仁淀川のいきもの調査2023について】
メンバー	・いつから取組を始めたのか。 →（事務局）令和3年度からである。
メンバー	・お寄せいただいている情報は増えているのか。 →（事務局）増えている。今年は去年より一般の方からの情報が多いと感じられる。
座長	・マップも3年目になり、当初は情報があまり寄せられなかったが、続ければ寄せられてくると感じている一方で、この状態では、これ以上情報が増えないと感じている。カジカガエルが常に生息していると分かっている場所から情報が寄せられてきたり、寄せられなかったりということに戸惑いを感じている。情報が寄せられてこないのは、その地点で関心を持つ人がいないと推測される。 流域でカジカガエルが生息している場所と生息していない場所を事前に調査し、情報寄せられない場所に、啓発活動の力を入れることでより多くの参加者を見込めないか。
メンバー	【その他ご意見】 ・非常に多岐にわたる活動、取組を行っているが、目標に向かって良くなっているかが、資料ではわかりづらい。目標に向かって、今の取組が本当に効果があるか評価していけば良いと思う。 →資料2の清流保全計画に基づく取組があるが、今の取組内容に対する成果は、流域の住民の方に十分理解・参画をいただくにはまだ遠い状況である。来年度に5年に一度の目標指標の見直しを行うが、計画の改定業務の中で、外部の専門機関に委託し、この計画の進め方や課題、現状を県が分析を行いつつ、情報収集をいただいて、素案を来年度に作成する。この協議会でも、ご意見をいただきつつ、一緒に議論することを考えている。資料の見せ方も次回以降、工夫したい。
メンバー	・観光の分野から、仁淀ブルーの名前が非常に有名で、観光の方に問い合わせが非

	常にある。「仁淀川、仁淀ブルーというものの場所を知らなかった。」「高知県にあるっていうのも知らなかった。」という声を非常に聞く。その際、四万十川と混同をされていることがあり、これからアピールしていくにあたって、考慮していければと思う。 →(会長)仁淀ブルーの場所などは、仁淀川観光協会と連携しながら情報発信をしていければ良いと思う。観光協会と関係性はあるか。 →（事務局）流域ごとに部会があり、部会員に仁淀ブルー観光協議会をはじめとした観光関係者も入っているので、そういった集まりの場を通じて、情報共有したいと思う。
座長	・オブサーバーに仁淀川の DMO（観光地域づくり法人）を参加していただくのはどうか。 →（事務局）検討する。
メンバー	・危なくない場所で、夏に親子で参加できるガサガサ体験をやるのはどうか。以前キャンプ場で１ヶ月間の学習研修を提案をした。小型定置網を子供たちに仕掛けてもらって、子供たちで回収し、何が取れたかを調べて、なぜそういう結果になったのかというような研修内容である。それは実現できなかったのか。 →（事務局）改めて検討する。
座長	・オオサンショウウオについて問題を感じている。今だに四国のオオサンショウウオは、もともと四国にいたのか、他から持ってきたのかという議論がある。最近の研究で、仁淀川の流域でサンプリングした個体の遺伝子を調べたところ、京都産の遺伝子、もしくは京都の遺伝子にごく近いものが出てきてることが分かってきた。日本列島の中では、京都や岡山、広島では、外国から持ち込まれた中国オオサンショウウオが、日本オオサンショウウオと交雑を起こし、ハイブリッドが生まれ、遺伝子補正の問題になっている。 幸い、四国の個体については、今までの遺伝子平均では日本産のもので、日本産の遺伝子を残すことに力を入れるのに、四国良い場所である。 一方で、仁淀川の川本来の生態系を取り戻すことを考えた場合には、何か手を出し始めなければいけないと感じている。
メンバー	・例年、土居川で夕方頃、カジカガエルが賑わっているが、去年は声が少なくなったと感じる。カジカガエルだけでなく他の生態についても調査をするべきだと思う。また、川を保全しようと思えば、山から考えないといけないと思う。植林により、なるべく自然の森に戻す努力をしていく必要があると考える。

【議題３の概要】

	以下について情報共有を行った。
座長	・企画展「横倉山の自然は、いま～横倉山生物総合調査成果報告～
会長	・身近な水環境の全国一斉調査

事務局	・かがみがわフェスタ特別企画　デジタル Stamp　Rally ・まちの編集を実践しよう ・かがみがわ 100 人おきゃく ・令和５年度第２回物部川フォーラム

閉会